

富士商會 がん治療テーマにセミナー開催

ホルモン依存性のがん増加

創業108年の富士商會(東京都千代田区)は2月14日、同社会議室でがん治療をテーマとしたセミナーを開催した。同セミナーは地域貢献と医療保険の普及を目的としたもの。同社は昨年「お客さまをお守りする運動」を開始しており、今回のテーマはその一環として設定した。当日は、南東北グループ三成会新百合ヶ丘総合病院予防医学事業課の大石朝子氏が「がんの早期発見とがん治療最前線」と題して講演し、日本人が罹患(りかん)するがんの種類が変化していることや、早期発見の重要性を指摘した。地域住民が参加し、熱心に聴講した。



大石氏

は36・8万人に上ったことを説明した。また、日本人が罹患するがんの種類はウイルスや細菌感染

大石氏はまず、日本人の死亡要因の第1位は悪性新生物(がん)で、2014年のがん死亡者数

エンやフェノール、ベンゼンといった250種類以上の発がん性物質が含まれているため、1日に吸ったばこの本数×喫煙年数(煙草指数)が600以上だと肺がんになるリスクが非常に高くなると述べた。併せて、受動喫煙や大気汚染も肺がんの大きな要因になるとした。

女性のがん罹患率第1位の乳がんについては、発見時のがんの大きさによって治療方法が大きく異なるため、2センチ以下でリンパ節への転移が



地域住民が参加した

ない段階で発見するのが重要だと強調。精度の高い検査ができる「PET-CTがドック」や、細かい放射線がん細胞に集中照射する「サイバーナイフ治療」といった最先端の医療技術を紹介した。

セミナー終了後は、講師の大石氏を囲んで恒例の茶話会が開かれ、参加者からは、がん治療に関する質問が多数寄せられた。

早期発見の重要性指摘

男性の死亡要因で最も多い肺がんの原因には喫煙が関係していると指摘。たばこの煙にはトル

た。

さらに、がん罹患者の約半数ががん保険未加入であり、経済的に困窮していると話し、「上皮内がんや再発、転移、通院、先進医療に対応できる保障の充実した保険が、がん患者にと

って役に立つと思つ」とアドバイスした。

セミナー終了後は、講師の大石氏を囲んで恒例の茶話会が開かれ、参加者からは、がん治療に関する質問が多数寄せられた。